

# オーストラリア人捕虜の家族との交流会 2026

ロシアによるウクライナ侵略、イスラエルによるパレスチナ自治区ガザへの攻撃など、世界各地で戦火が絶えません。法も正義も無視した自国第一のむき出しのエゴイズムが横行し、戦火がさらに広がる危機的状況が生じています。私たちは一体過去の戦争から何を学んだのでしょうか。

POW 研究会は 3 月 3 日、日本政府の招聘で来日するオーストラリア人捕虜の家族の方々との交流会を行います。80 年前の戦争で日本軍の捕虜だった彼らの父たちがどんな体験をし、次世代にどう受け継がれているかを知り、お互いに平和構築のために何ができるかを語り合しましょう。ぜひご参加ください！

<日時> 2026 年 3 月 3 日(火) 14:00~16:00(開場 13:40)

<会場> 出版クラブ 4F (401・402) 地下鉄神保町駅 A5 出口より徒歩 2 分

<主催> POW 研究会 <参加費> 500 円 (学生無料)

<http://www.powresearch.jp/jp/index.html>

<お申し込み> 高田ミネ [mime388@nifty.com](mailto:mime388@nifty.com)

笹本妙子 [kiki@ee.catv-yokohama.ne.jp](mailto:kiki@ee.catv-yokohama.ne.jp)

小宮まゆみ [mayumi@am8.highway.ne.jp](mailto:mayumi@am8.highway.ne.jp)



## ゲストの方々

### ① コリン・モンテフィオーレ氏 (Mr. Colin Montefiore)

- ・元捕虜の息子。71 歳。西オーストラリア州在住。
- ・父アーサー・E・モンテフィオーレ (Arthur E. Montefiore) 氏はジャワで捕虜となり、シンガポールから輸送船「玉鉾丸」で日本に向かう途中、長崎沖で米潜水艦に撃沈されたが、救助されて長崎市内の福岡第 14 分所に収容。この収容所は 45 年 8 月 9 日の原爆で全壊したが、彼は生き延びて故国に帰還。



### ② バリー・ドワイヤー氏 (Mr. Barry Dwyer)

- ・元捕虜の息子。76 歳。ニューサウスウェールズ州在住。
- ・父フランシス・J・ドワイヤー (Francis J. Dwyer) 氏はシンガポールで捕虜となり、チャンギ収容所を経て、泰緬鉄道の建設工事に使役された。その後、山口県山陽小野田市にあった大浜収容所 (広島第 9 分所) に移送され、炭鉱労働に従事し、ここで終戦を迎える。



### ③ ピーター・ティンリー氏 (The Hon Peter Tinley AM)

- ・全豪退役軍人会 (RSL) 会長。63 歳。西オーストラリア州在住。
- ・25 年間の軍歴を持つ退役軍人で、豪州 SAS (特殊空挺連隊) で 17 年間勤務。複数の紛争地域で指揮を執った。
- ・退役後、西オーストラリア州議会で 15 年間政治家として活動し、同州の退役軍人問題大臣などを務めた。2025 年より RSL の会長を務め、退役軍人とその家族の支援に尽力している。

